

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
日本経済論				齋藤 達弘	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	1年次	講義	無	無
授業の概要 (Course Description)					
<p>この授業では戦後の日本経済の歩みを学ぶ。日本は戦後に奇跡の復興を遂げ、高度経済成長を経て世界有数の経済大国となった。その後、二度のオイル・ショックを乗り越え、バブルの生成・崩壊を経て、金融危機からデフレへと推移してきた。2008年、世界金融危機・同時不況が起こり、その影響で日本経済はデフレの時代が続いた。経済が低迷した1990年代と2000年代を指して「失われた20年」(空白期)とよばれている。2013年からアベノミクスが打ち出され、現在に至っている。</p> <p>授業は、テキストの章立てにしたがって、経済学の考え方を補足しながら進め、予習に基づく報告(何が書かれていたか)や意見(何が重要なポイントと考えるか)を受講生と質疑する形式で進める。経済現象を理解するためには、経済学を踏まえた分析と考察が求められる。この授業では、経済学の考え方を講義資料で補足する。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>この授業の到達目標は、</p> <p>(1) 日本経済の繁栄を支えてきた機能</p> <p>(2) 日本経済の実態 (何が機能不全に陥っているのか)を理解することである。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンスと日本経済論の全体像				
第 2 回	講義ノート (GDP・三面等価の原則・名目と実質)				
第 3 回	テキスト 第1章				
第 4 回	テキスト 第2章と第3章				
第 5 回	講義資料 やさしい経済学 市場の機能 (市場メカニズム)				
第 6 回	テキスト 第4章と第5章				
第 7 回	前半のまとめ				
第 8 回	中間試験と解説				
第 9 回	講義資料 やさしい経済学 サービス産業と生産性向上 (成長会計)				
第 10 回	テキスト 第6章と第7章				
第 11 回	講義資料 やさしい経済学 貿易は豊かにする (比較優位)				
第 12 回	テキスト 第8章と第9章				
第 13 回	講義資料 やさしい経済学 合成の誤謬				
第 14 回	テキスト 第10章と第11章				
第 15 回	後半のまとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>授業は授業計画にしたがって進める予定である。次回の内容 (テキストや講義ノート、講義資料)を予習し、報告や意見の求めに応じる準備しておくこと。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)		
評価方法	(割合)	評価基準
中間試験 期末試験	(50%) (50%)	秀：キーワードや考え方を特筆すべき水準で理解している。 優：キーワードや考え方を適切な水準で理解している。 良：キーワードや考え方をおおよその水準で理解している。 可：キーワードや考え方を最低限の水準で理解している。 不可：キーワードや考え方の理解が最低限の水準に達していない。
テキスト (Textbook)		小峰隆夫・村田啓子『最新 日本経済入門 [第5版]』日本評論社、2016年。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)		釣雅雄『入門 日本経済論』新世社、2014年。 宮崎勇・本庄真・田谷禎三『日本経済図説 (第四版)』岩波新書、2013年。
備考 (Other Information)		授業計画に則して進める予定であるが、状況に応じて授業計画を変更することがある。また、受講者数により評価方法を変更することがある。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)		メール連絡。